

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【慈恩寺中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	引き続き、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着が課題となる。各教科の授業や単元内における復習の時間の設定やスタサプタイム等を継続実施し、さらにそれらの実施方法を工夫することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図っていきたい。
思考・判断・表現	引き続き、複数の根拠をもとに自分の考えをまとめたり、自分の考えを論理的に表現したりする力を身に付けさせることが課題となる。各教科の特性に応じて単元計画や授業の構成を見直し、一年間の教育活動の中で適切な資料を選択して自分の考えをまとめたり、資料からわかることや自分の考えを適切に表現したりする活動を計画的に取り入れ、適切なフィードバックを行うことで、これらの力を身に付けさせたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 令和6年度実施のさいたま市学習状況調査の結果から、知識・技能に関わる問題の正答率が低い箇所がある。 <指導上の課題> 基礎・基本的な知識・技能を定着する活動の充実に課題が残った。	⇒ <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で前時の復習の時間を設けたり、単元のまとめとして小テストを実施したりすることを通して、基礎学力の定着を図る【毎時間】 週2回のスタサプタイムを実施し、基礎学力の定着を図る【週に2度】 テスト期間に合わせてスタディサプリの活用を促し、家庭学習習慣の定着を図る【年に5度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 複数の根拠をもとに自分の考えをまとめたり、自分の考えを論理的に表現したりすることが困難な場面が見られる。 <指導上の課題> 自分の考えを論理的に表現したり、異なる意見と折り合いをつけて解決したりする方法を探したりする機会が少ない。	⇒ <ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業において、単元の特性に応じて話し合い活動や自由進度学習を適宜取り入れ、自分の考えをまとめる活動を実施する頻度を増やす【毎時間】 昨年度に引き続き、学級会の機会を活用して生徒が自らの考えを表現することができるように指導していき、キャリアプランニング能力の育成につなげる【1か月に1度程度】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	授業内での復習の時間の確保、週2回のスタサプタイムの実施、スタディサプリ等を活用したテスト前や長期休暇における家庭学習の奨励を継続して行った。さいたま市学力・学習状況調査の正答率の低下が見られなかったことから、これらの活動には一定の成果があったと考えられる。しかしながら、基礎的知識・技能のさらなる定着に向けて、より充実した取組の検討の必要性も明らかになった。
思考・判断・表現	B	教科の特性に応じて話し合い活動や、資料に基づいた考察、自分の意見をまとめたり、発表したりする活動に継続して取り組んだ。また、学活の時間において、自らの考えを表現したり、自らの行動に関する意思決定を行ったりする活動を継続して行った。さいたま市学力・学習状況調査の正答率の低下が見られなかったことから、これらの活動には一定の成果があったと考えられる。しかしながら、これらの活動は1年間の見直しの中で意図的・計画的に実施する必要があり、カリキュラム・マネジメントの面で課題が残った。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語、数学ともに知識・技能をみとる問題の無答率は昨年度とほぼ同程度であるものの、知識・技能の正答率に課題がみられる。	
思考・判断・表現	国語、数学ともに、思考力・判断力・表現力をみとる問題の正答率は昨年度とほぼ同程度であるものの、無答率が著しく高い。特に、国語においては根拠をもとに説明する問題や文章の構成を論理的に考える問題、登場人物ごとの立場に立って状況や心情を考え、表現する問題の無答率が高く、数学においては数量の関係や事象を数学的に解釈して表現する問題や数式の意味を解釈したり説明したりする問題の無答率が高い。このことから、思考力・判断力・表現力の定着に学校内で大きな差ができていと考えられる。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	中1、中2では昨年度以前と比較し、正答率が同程度であった。また、中3では、昨年度以前よりもわずかに正答率の上昇が見られた。このことから、基礎・基本的な知識・技能を定着する活動の充実に依然として課題が残るという結果となった。	
思考・判断・表現	中1、中2では昨年度以前と比較し、正答率が同程度であった。また、中3では、昨年度以前よりもわずかに正答率の上昇が見られた。このことから、根拠をもとに考えを説明する活動や、事象を論理的に説明する活動の充実に依然として課題が残るという結果となった。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学力向上策として挙げた3点を継続的に実施しているほか、スタサプを活用して長期休暇等に復習課題を出し、基礎的知識・技能の定着を図っている。	
思考・判断・表現	C	教科や単元・題材の特性に応じて話し合い活動等は取り入れられているが、話し合った結果や調べた結果をもとに考察したり、自分の意見をまとめたりする活動や、それらを発表してフィードバックを受ける活動をより深化させる必要があると考えられる。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)